

インターバンクの声（2017年7月18日）

金曜日に発表された6月の米消費者物価指数と小売売上高がともに市場予想を下回ったことで、指標発表直後のドルは、対円で70銭余り、対ユーロでも50ポイントほど下落したが、その後は比較的穏やかな相場が続いている。再びFRBの年内利上げ観測が後退したりしているが、米10年債利回りも2.3%を大きく割り込むには至っていない。

以前は東京市場が休場になれば、日本勢の不在を狙ってヘッジ・ファンドなどが相場仕掛けをするようなこともよくあったが、最近は昨日のように静かなアジア時間になることが多い。

欧米市場でも7月のニューヨーク連銀製造業景気指数が週末の指標に続いて市場予想を下回ったが、昨夜は反応薄だった。今年は米経済指標に弱い内容の発表が続いても結果的には一時的なもので、その後は回復に向かったことが数回あり、市場が今回についても慎重になっているのかも知れない。金融緩和の縮小に向かうECBの姿勢や、イエレン議長以外の委員会メンバーの利上げに対する見方を確認するためにも、今週のECB理事会や来週のFOMCを待ってからでもドル売りは遅くないとの見方が多いことも影響しているようだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。